

(株)リーピー(情報通信業・岐阜市)

働きやすさと生産性の向上を同時に追求し、創業以来、每期増収増益を達成

- ・ 裁量労働制やフレックス制、在宅勤務等柔軟な勤務体系を導入
- ・ 生成A I 等最新技術の活用により、業務を効率化し、生産性を向上
- ・ 働きやすい環境に惹かれ、社員の4割が他県からの移住者



川口代表自身もIターン移住者

かわぐちさとし

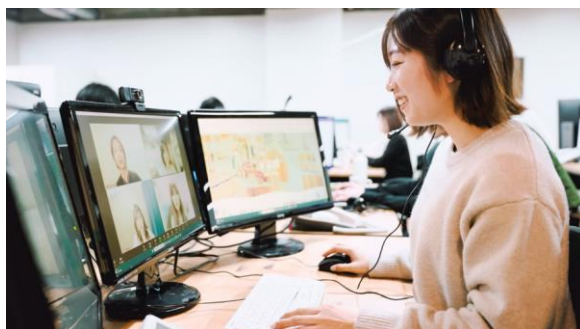
川口聡代表が創業するにあたって、まず考えたのは、自社の採用力をどのように高めるかでした。「創業間もない企業では知名度が無く、人が集まらない。他社と差別化するために、働きやすさを会社の売りにしよう」。

そこで、12年前の創業時から裁量労働制（対象：デザイナー・エンジニアなどのクリエイティブ職）及びフレックスタイム制（対象：クリエイティブ職を除く全ての職種）を導入しました。

ライフスタイルに合わせた柔軟な働き方で子育てと仕事を両立

裁量労働制は成果のみが求められ、自分の裁量で自由な時間に働くことが出来ます。また、フレックスタイム制は、勤務が義務付けられたコアタイム（12時～15時）さえ守れば、勤務の開始・終了時間は社員の都合に任せられています。このため、子育て中の社員は、夕方、一旦仕事を切り上げて、子どもを迎えに行った後、夜からは在宅勤務に切り替えて業務を再開するなど、個人の都合に合わせて柔軟に働くことが出来ます。川口代表自身も子育てのため、夕方早くに帰宅することが多く、多くの社員が当たり前のように各自のライフスタイルに合わせ、柔軟に働くスタイルが定着しています。

また、子育て中の社員には男性も含め、10日以上の子育休取得を義務付けており、男性でも長い方では、2年半の育休を取得しています。「当社の男性社員は全員子どもの授業参観に行っています」と川口代表が語るとおり、男性も含め、子育てと仕事の両立を図るライフスタイルが当たり前になっています。



オンライン会議を行う社員

生産性向上のため、DXによる業務効率化を追求

しかし、単純に社員の働きやすさを追求するだけでは、会社全体の労働時間や業務量が減るため、売り上げも落ちてしまいます。「会社が存続するためには、働きやすさと生産性向上の追求はセットで求めないといけない。そのために、生産性向上には相当力を入れている」と川口代表。

ここで活躍するのが生成AIやRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）といった最新技術です。例えば、電話対応では、すぐに職員が受電せず、一旦自動音声で要件を聞き取ったうえで、生成AIが自動で文字起こしと担当者の振り分けを行い、電話対応に係る社員の負担を減らしています。また、社内業務を効率化するための専任の職員を配置し、社内業務の自動化の改善などを常に行っています。他にもプロジェクトが完了する毎に、メンバーで業務を振り返り、業務改善のための意見交換を行い、更なるブラッシュアップを常に目指しています。

毎期増収増益を達成、県外からも就職希望の若者が集まる



平均年齢32歳、若手が活躍する職場

こうした取組みの結果、同社の平均残業時間は1月あたり3.7時間にとどまる一方、取引先は全国で1,240社に拡大し、創業以来、毎期増収増益を達成しています。また、同社の働きやすい環境に惹かれ、全国から多くの若者が集まり、現在は、他県からの移住者が社員の4割を占めるまでになりました。

【従業員の声】

初めての出産でしたが、会社内で子育て中の職員が多いですし、会社の理解があり、産休や育休の開始時期、復帰後の時短勤務なども個人の希望を聞いてもらえるので、とてもありがたいです。

【（株）リーピー】 (<https://leapy.jp/>)

所在地：岐阜市香蘭3丁目7番地

従業員：61名（うち正社員54名、パート7名）

設立：平成25年

（令和7年5月末時点）